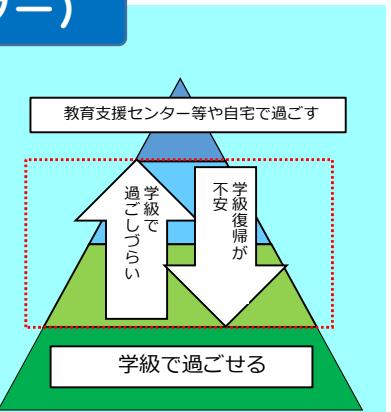


校内サポートルームについて

校内サポートルーム（校内教育支援センター）

学校には行けるけれど、自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる、学校内の空き教室等を活用した部屋。児童生徒が安心して過ごせる居場所としてそれぞれのペースに合わせて相談に乗ったり学習のサポートを行う居場所。

自分の教室へ居づらくなった児童生徒の他、教育支援センター等から直接、自分の学級への復帰が難しい児童生徒にとっての居場所にもなる。



○個別に学習するスペース

個人ブースなど、他の人の視線を感じず、安心した環境で学習を実施



○小集団での学習

スクール形式や円卓上など、生徒が学習しやすい体制で一斉、グループ学習を実施



○休憩スペース

ソファーなど、エネルギーを使い過ぎて疲れた時に休めるスペース



**(令和6年度) 県内公立小中学校45校設置（指定校11校含む）
(R6.8調査)**

ICTを活用した支援

学級の授業風景や行事の様子をライブもしくは録画により配信したり、教育支援センターや家庭とオンラインでつなぎ、交流や相談したりする支援等を実施。



指定校の校内サポートルームの取組

- ・コーディネーターが常駐し、サポートルームを運営。
- ・個々の生徒の実態を考慮し、それに合った過ごし方を自己決定させ、実行できるよう配慮している。
- ・教科担当教諭が時間割を調整し、学習支援を実施。
- ・授業や体育祭等の行事をオンラインで配信。

【成果と課題】

- 校内サポートルーム設置校（中学校）における新規不登校児童生徒出現率が県全体と比較して低い。
- 生徒の出席日数が増え、進路実現を果たしている。
- オンライン配信を見ることで、所属学級の様子を知り、学級復帰を果たす一助につながっている。
- 不登校児童生徒出現率が増加している学校があることから、継続して不登校状態にある子どもが一定数いる。
→学校に登校しづらい子どもについて、学校外の学びの場にいかにつなぐか、学校外の学びの場と校内サポートルームの連携が必要である。
- 子どもたちの様々なニーズに合った支援を行える環境整備をどうしていくか。

不登校事業指定校11校の状況

	不登校出現率 (%)		
	R3	R4	R5 (速報値)
指定校	6.9	6.8	7.1
県全体	6.7	6.4	6.9
県全体と配置校の差	0.2	0.4	△0.2

	新規不登校出現率 (%)		
	R3	R4	R5 (速報値)
指定校	2.6	2.4	2.4
県全体	2.8	2.5	2.7
県全体と配置校の差	-0.2	-0.1	△0.2